

対談

京都フィロムジカ管弦楽団  
スプリングコンサート

Kyoto Philomusica Orchestra Spring Concert

ベートーヴェルの音楽を聴く

1977年、東京でデビューした谷高 宣次は、1980年に京都府立音楽高等学校に入学し、1983年に同校を卒業後、東京交響楽団に入団。1987年に退団後、フリーランスの演奏者として活動。1990年に京都府立音楽高等学校に教員として復帰。2000年に同校を退職後、引き続きフリーランスの演奏者として活動。2010年に京都府立音楽高等学校に校長として復帰。2015年に同校を退職後、引き続きフリーランスの演奏者として活動。

## ご挨拶

本日は京都フィロムジカ管弦楽団スプリングコンサートにご来場いただき、誠にありがとうございます。はやいものでフィロムジカが誕生して2年が過ぎました。やるべきこと学ぶべきことはまだまだたくさんありますが、順調に遅しく歩んでいるのではないかと思います。

2年の間にフィロムジカを通して出会いがあり、また別れがありました。そうやってさらに豊かになっていくのですね。誰かを感動させようとするならばまず自分が感動しなければならない、といいますが、私たちもフィロムジカで人間としてより深く味のある成長を続けながら、したたるような感性を得ていきたいと思ひます。そしてこれは自分たちのものだ、といえるような音楽を皆様に伝えることができれば、と思ひます。どうかこれからもフィロムジカをよろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、高瀬博章氏、トレーナーの先生方をはじめ、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

京都フィロムジカ管弦楽団

団長 小林 香

## 客演指揮者のプロフィール

**高谷 光信** 1977年、京都に生まれる。7歳よりピアノを、13歳よりトランペットを始める。

堀川高校音楽科（現・京都市立音楽高校）を経て、現在、大阪音楽大学音楽学部在籍。高校在学中に佐渡裕、小泉和裕氏の公開講座に参加、薫陶を受け指揮者を志す。大学入学と同時に指揮の勉強を開始、1996年、ロシア・マリエル国立歌劇場首席指揮者、V. ブラソロフ氏より指揮のレッスンを受ける。

1997年4月、大阪音大カレッジオペラハウス公演 広上淳一指揮 歌劇「トスカ」に、また、同年9月同大学学生選抜オペラ 松尾昌美指揮 歌劇「フィガロの結婚」に指揮スタッフとして参加、研鑽を積む。

現在、子供の音楽教室弦楽合奏講座指揮者。

その他、京都府厚生年金基金合唱団などをたびたび指揮している。指揮を伊吹新一、辻井清幸、藏野雅彦に師事。

# Program

ダンツィ：「木管五重奏」変ロ長調 作品 56 第 1 番  
*Franz Danzi : "Bläserquintett B-dur op.56 Nr.1"*

イベルル：「喜遊曲」(室内オーケストラのための)  
*Jacques Ibert : "Divertissement(Pour orchestre de chambre)"*

I. Introduction

II. Cortège

III. Nocturne

IV. Valse

V. Parade

VI. Finale

————— 休憩 —————

ベートーヴェン：「交響曲第 7 番」イ長調 作品 92  
*Ludwig van Beethoven : "Symphony Nr.7 A-dur Op.92"*

I. Poco sostenuto - Vivace

II. Allegretto

III. Presto - Assai meno Presto

IV. Allegro con brio

## 指揮：高谷 光信

*Conductor : Takaya Mitsunobu*

————— 1998.4.18(土) 午後 6 時 30 分開演 京都こども文化会館 —————

ルートヴィヒ ヴァン ベートーベン (Ludwig Van Beethoven) (1770~1827)

## 交響曲第七番 イ短調 作品 92 (1811~1812)

1808年12月、交響曲第五番と第六番の初演を大成功させたベートーベンはいよいよ間をおいた1312年、交響曲第七番を完成させた。このころはちょうどウィーンがフランスの占領から開放されたときであり、そういった時代状況とこの曲の持つリズムカルで祝祭的な雰囲気似ていたからか、前作の二つの交響曲を越える大人気となった。前作二つの素晴らしさは言うまでもないが、彼はこの作品でマンネリ化を防ぐため前作とは違った個性を出そうといろいろと工夫している。たとえば五番と六番では両方とも第一主題が弦楽器で始まり終始、弦楽器主導で曲が進んで行くが、七番では第一主題が管楽器で始まり管楽器が終始、弦楽器とは独立して曲が進んでいく。これはこの時代としては画期的な手法で後々の作曲家に大きな影響を与えていくことになる。もう一つはリズム感の素晴らしさである。交響曲でここまでリズムカルで活力あふれる作品はこの作品が初めてでやはり後々の作曲家に大きな影響力を与えていくことになる。

### 第一楽章：Poco sostenuto - Vivace

弦楽器の堂々とした和音に続き、オーボエがゆっくりと出てきて、引き続き木管楽器による第一主題へと入っていく。「舞踏の神化」とワーグナーが評したリズムカルな主題が心地よく響いてくる。

(約15分)

### 第二楽章：Allegretto

木管楽器による悲しい響きの和音に続き、低弦楽器が舞送行進曲のような重いリズムで曲を引っ張っていく。世の中の苦しみを全て背負ったかのようなベートーベンお得意の手法は一種の霊的な雰囲気を感じ出す。(約9分)

### 第三楽章：Presto

第二楽章とは打って変わり、リズム感あふれる楽章となる。オーストリアの巡礼の歌に由来すると言われるトリオの旋律は第二楽章で疲れ切った人々のオアシスとなる。(約9分)

### 第四楽章：Allegro con brio

この曲中でもっともリズムカルな楽章。熱狂的なリズムはだんだんと高まっていき、クライマックスへと突入していく。指揮者の腕の見せ所の楽章でもある。(約8分)

ジャック イベル (Jacque Ibert) (1890~1962)

## ディベルティメント (室内オーケストラのための) (1928)

イベルは20世紀前半~中頃にかけてフランスで活躍した作曲家で、軽やかで楽しい曲が多く、オーケストレーションもイメージ豊かで巧妙になされている。

### 第一楽章：前奏曲

弦楽器とトランペットの楽しいメロディで始まる  
(約1分30秒)

### 第二楽章：幕列

物悲しさの中にも何かユニークさの感じられる楽章  
(約5分)

### 第三楽章：夜観曲

夜の静けさそのまま、曲全体の中休みのような楽章  
(約3分)

### 第四楽章：ワルツ

優雅でブルジョワチックなワルツ (約3分30秒)

### 第五楽章：パレード

木管が主題を提示した後、弦のおどけたリズムに乗って主題が展開する (約2分)

### 第六楽章：終曲

ピアノソロの後、テンポのいい二拍子の主題が展開される。途中からホイッスルも入ってきて熱狂的に曲を終える。(約2分)

名嘉原 忠博 (Tadahiro NAKAHARA) : 音楽評論家

# メンバーリスト

顧問：和田 之宏

団長：小林 香

コンサートミストレス：仲井 淑子 (イベール)

五十嵐 満美子 (ベートーヴェン)

## Violin

五十嵐 満美子  
井上 あゆみ  
井上 史  
井上 理恵  
上田 松子  
小幡 拓也  
川端 さとみ  
齊藤 圭司  
高見 真己  
津田 和子  
津田 篤太郎  
仲井 淑子  
中島 円  
奈倉 道和  
西村 浩輔  
野口 彩子  
平本 知子  
堀口 真仁  
村山 義尚  
宮下 康子  
森川 夏子  
吉野 仁子  
吉本 光佐  
若林 稔

(団友)

芦田 真由美  
今井 早智子  
川口 真由子  
小久保 あおい  
須山 恵理子  
丸目 裕美  
森 路佳  
吉野 美穂

## Viola

植木 廣伸  
河上 由香里  
谷口 彩  
長谷山 智仁  
(団友)  
池田 有佳  
川島 朋子  
富森 麻有  
原田 久美子  
安井 久美子

## Violoncello

小野田 税  
菊池 涼  
小松 正明  
神原 佐知子  
中村 郁哉  
村上 直  
(団友)  
石黒 豪  
久保田 真紀  
山下 久美子

## Contrabass

中村 正徳  
安田 博子  
吉本 政弘  
(団友)  
谷口 理保

## Flute

隈部 洋平  
酒匂 美奈子  
畠山 泉  
逸見 正憲  
政岡 潤平

## Piccolo

松村 朋美

## Oboe

明石 真琴  
中木 明日香

## Clarinet

佐藤 郁子  
武田 勝正  
山下 由美子

## Bassoon

高山 泉  
廣岡 美紀

## Horn

芦原 俊平  
木下 高好  
木下 洋輔  
小又 雄一郎  
長岡 武志  
藤原 義和  
前田 暢

## Trumpet

渡辺 美智子  
遠藤 啓輔  
小林 香  
濱田 篤  
村上 明日香

## Trombone

川原 靖弘  
宇佐美 勝也  
坂本 倫子

## Tuba

小島 忠司

## Timpani &

## Percussion

草場 直也  
(客演)  
田居 聖子

## Piano

(客演)  
吉永 愛子

## Office

伊吹 勇亮  
上田 珠子  
高田 志保

## 謝辞

当団の活動に多大なご支援を下さいました高瀬博章様にこの場を借りて御礼申し上げます。

# 第4回定期演奏会のお知らせ

1998年11月29日(日)

京都コンサートホール 大ホールにて

サンサーンス 交響曲第3番「オルガン付き」

プーランク ピアノコンチェルト 他

指揮：藏野雅彦

## 新入団者 募集中

ヴァイオリン ヴィオラ チェロ コントラバス  
オーボエ ファゴット パーカッション

練習は毎週日曜日午後1時～午後5時です。

練習場所は河原町丸太町周辺です

(事務局がここにあります)

弦楽器は、初心者も歓迎します。

管楽器は、オーディションがあります。

連絡先：政岡 (075-982-5039)

小林 (jg3057@mail2.doshisha.ac.jp)

## 賛助会員募集中

フィロムジカの活動に協賛して下さる方を募集しています。

年会費 個人会員：1人につき ¥4,000-

ペア会員：2人で ¥7,000-

Jr. 会員：高校生以下1人で ¥2,000-

特典 年2回の定期演奏会にご招待します。

会報にて、演奏会などの情報を案内します。

興味がありましたら、坂本 (075-406-2600)

小林 (jg3057@mail2.doshisha.ac.jp) まで

お気軽にどうぞ。